

閉校した学校が生まれ変わった



小学校のときと同じ色できれいに塗り直された施設



談話室



遊び室「名木っ子」



施設内での作業の様子



体育館



災害備蓄品

旧名木小学校の跡地が活用され、「ネクスト名木小」として生まれ変わりました。施設を再整備するための改修費用は市の財政負担なしで実現しています。今号ではネクスト名木小を紹介します。

平成26年3月に閉校した名木小学校。市では、学校跡地の活用について検討を行い、地域への説明を経て、旧名木小学校を民間事業者に貸し出す方針としました。

そして、旧名木小学校の校舎や体育館が再利用され、市民の福祉の向上や地域コミュニティの活性化に取り組み施設「ネクスト名木小」になり、本年5月に全面オープンしました。

ネクスト名木小ってどんな施設

ネクスト名木小は、主に自閉症などの知的障がいがある人を対象とした障害福祉サービス事業所（生活介護事業所）です。福祉施設として活用していったための改修工事などが行われました

が、外観や一部の部屋は、小学校当時の面影が残るように工夫されています。

運営事業者 社会福祉法人 菜の花会

開館時間 月々金曜日 午前8時～午後5時

施設内には、地域の人々が利用できる部屋などもあり、地域の人々が気軽に集まることのできる施設にしていきたいという事業者の願いが込められています。

地域の会合などで利用したい場合には、ネクスト名木小（☎85・5131）へ問い合わせてください。

○職員室：職員がいます。施設を利用する前に声を掛けてください

○談話室：元校長室です。歴代の



校長先生の写真が掲示されています。地域の会合や談話の場として活用できます。

○遊び室「名木っ子」：元教室です。地域の人の遊び場としても活用できます。選挙の際は、投票所として活用されます。

○体育館：運動施設として利用できます。バスケットコート一面、バレーコート一面の広さがあります。災害時には自主避難所として使うことができます。

○校庭：子どもたちの遊び場や地域行事などに利用できます。災害時の指定緊急避難場所として、またドクターヘリの離着陸場として登録されています。

改修には市の財政負担なし

旧名木小学校の活用には、民間事業者の資金力やアイデアで事業を進める「PPP(官民連携)」と呼ばれる方法で取り組みました。この方法のメリットは、民間の優れた技術・サービスなどにより、市の財政負担を減らしながら費用対効果の高い公共サービスを提供できることや、事業スケジュールを短縮できることです。また、今回は施設を地域に開放するなどの地域貢献活動の提案が

事業者からあり、公共・公益性が非常に高いものとなっています。

今回の学校跡地の活用で見込まれる効果

市全体の福祉の向上

市内で不足している障害福祉サービス事業所が新設されたことで、障がいのある人が地域で安心して暮らせる社会の実現が期待されます。

地域の環境美化

事業の一環として、周辺のごみ拾いや草刈活動が実施され、地域の環境美化に貢献しています。

地域コミュニティの維持

施設は地域に開放され、一部の教室や体育館、校庭を地域の集いや子どもの遊び場として利用することができます。また、地区社会福祉協議会の催し物の会場としての活用も予定されています。

インタビュー

地域と共に歩む施設に

ネクスト名木小 施設長
前田潤悦さん



現在、障害福祉サービス事業所が不足しています。知的障がい者が特別支援学校を卒業後、日中の活動の場がなく目標もない日々を過ごすようにするため旧名木小学校を借用し、障がい者の通所施設として活用することを提案しました。施設名は、地域の皆さんの思い出が詰まった「名木小」を生かしたものにしたいと思いました。また、次(next)の役割として、子どもから高齢者、障がい者、地域住民までが気軽に集える場所でもある福祉事業所を目指したいと考え、施設名を「ネクスト名木小」としました。施設の一部を地域住民に開放したり、地区社会福祉協議会と連携した催し物を開催したりもします。名木小学校が地域の核であったようにネクスト名木小もそのような集いの場でありたいと思います。

旧久住第二小学校

活用事業者を募集

市では、地域の活性化やコミュニティ機能の維持を図るため、旧久住第二小学校(大室)の校舎や体育館、校庭などを活用する事業者を募集します。

選考は公募型プロポーザル方式で行います。提案者は、説明会や現地見学などに参加し、事業計画や改修計画、運営後の姿を提案してください。

条件や募集スケジュールなどは企画政策課ホームページ(<http://www.city.narita.chiba.jp/sisei/sosiki/kikaku/std0169-4.html>)で公表します。
※くわしくは同課(☎20-1500)へ。



平成23年3月に閉校した久住第二小学校

れています。災害時には、避難場所や自主避難所として利用できます。また、事業者の地域貢献活動の一環として、周辺地域から避難者を受け入れるための災害備蓄品が用意されています。
※くわしくは企画政策課(☎20-1500)へ。